

最強調査

全国低貸玉営業分析レポート

ホームページ特別補足版

文 佐野 浩

大都販売株式会社 カスタマーSE課

全国に広がる低貸玉営業店舗の実態

今回「月刊グリーンペーパー」編集部からの提案により低貸玉営業レポートを発表することができた。本レポートは2008年1月に大都販売が独自に実施した全国規模の調査の分析結果である。ここでは誌面の都合上掲載することの

できなかった内容について補足するものである。

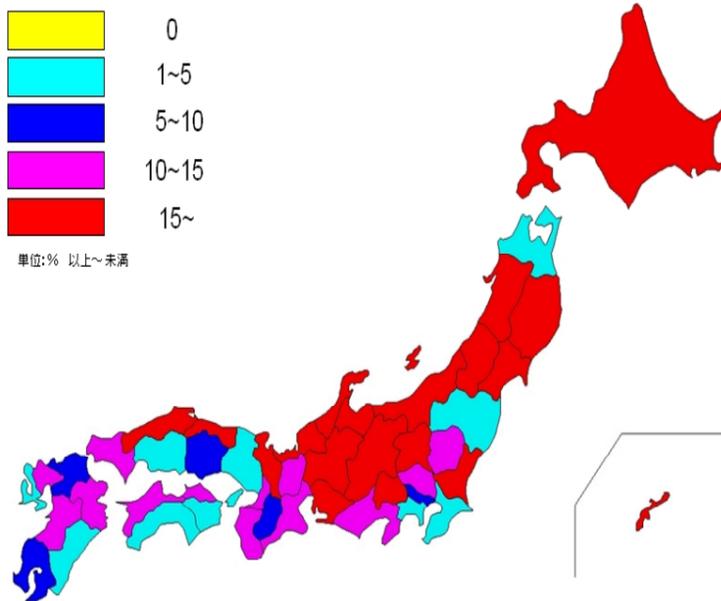
図表1は地域別の低貸玉営業店舗件数になる。北海道や北関東では早くから導入が進み件数もかなり多くなっている。しかし中国・四国や九州では徐々に認知されているものの、件数自体はそれほど多くはない。今後の流行している地域や近隣店舗の状況によって今後の件数の増減が決まってくるだろう。また各地域の飽和率を把握する為に、導入

率ベースで表したものが図表2・3となる。東日本のほうが導入率は高く特に地方での導入率が高い。逆に都内での導入率は少ない。低貸玉営業では稼働が要となるため、ゆとり遊技できる郊外店のほうが向いているということなのである。全国的に見ても25%を超えている県もあることから地域初導入という言葉もめっきり聞かなくなった。それだけこの低貸玉という営業形態が急速に普及し、ファンに受け入れられたということであろう。

図表1：都道府県別低貸玉営業導入状況

北海道・・・247件
東北地方・・・169件 青森県 13 秋田県 20 岩手県 49 宮城県 36 山形県 28 福島県 23
関東地方・・・372件 東京都 54 神奈川県 36 茨城県 71 埼玉県 88 群馬県 63 栃木県 26 千葉県 34
信越・北陸地方・・・161件 新潟県 50 長野県 35 富山県 16 石川県 29 福井県 16 山梨県 15
東海地方・・・246件 静岡県 61 愛知県 117 岐阜県 47 三重県 21
近畿地方・・・299件 京都府 55 滋賀県 25 大阪府 147 奈良県 5 和歌山県 20 兵庫県 47
中国・四国地方・・・119件 岡山県 7 鳥取県 14 島根県 13 愛媛県 18 香川県 10 高知県 6 徳島県 6 広島県 19 山口県 26
九州・沖縄地方・・・138件 福岡県 18 佐賀県 13 長崎県 16 熊本県 26 大分県 17 宮崎県 10 鹿児島県 12 沖縄県 26

図表2：都道府県別低貸玉営業導入率(図)



図表3：都道府県別低貸玉営業導入率(表)

北海道・・・38.41% (247/643件)
東北地方・・・16.22% (169/1042件) 青森県 8.50% 秋田県 15.63% 岩手県 30.06% 宮城県 15.00% 山形県 23.93% 福島県 9.54%
関東地方・・・9.48% (372/3925件) 東京都 4.47% 神奈川県 5.52% 茨城県 20.76% 埼玉県 13.19% 群馬県 26.14% 栃木県 10.70% 千葉県 6.34%
信越・北陸地方・・・18.59% (161/866件) 新潟県 19.92% 長野県 15.15% 富山県 17.39% 石川県 25.22% 福井県 18.60% 山梨県 16.48%
東海地方・・・15.71% (246/1566件) 静岡県 14.73% 愛知県 16.03% 岐阜県 17.80% 三重県 13.29%
近畿地方・・・13.73% (299/2177件) 京都府 22.00% 滋賀県 14.53% 大阪府 14.77% 奈良県 4.59% 和歌山県 12.90% 兵庫県 9.48%
中国・四国地方・・・9.48% (119/1255件) 岡山県 3.85% 鳥取県 17.72% 島根県 15.29% 愛媛県 13.43% 香川県 10.75% 高知県 5.50% 徳島県 8.33% 広島県 5.85% 山口県 14.77%
九州・沖縄地方・・・8.83% (138/1562件) 福岡県 4.13% 佐賀県 13.54% 長崎県 9.94% 熊本県 12.87% 大分県 11.41% 宮崎県 6.21% 鹿児島県 4.44% 沖縄県 29.89%

図表4：地域別貸玉件数

	1円パチンコ	2円パチンコ	その他P	5円スロット	10円スロット	その他S
北海道	208	17	3	93	12	6
東北	148	4		43	13	2
関東	314	24	5	69	40	7
信越・北陸	135	12	1	45	18	2
東海	168	31	1	58	73	4
近畿	242	27	1	32	49	2
中国・四国	69	11	10	40	26	
九州・沖縄	121	5	1	42	8	11
計	1405	131	22	422	239	34

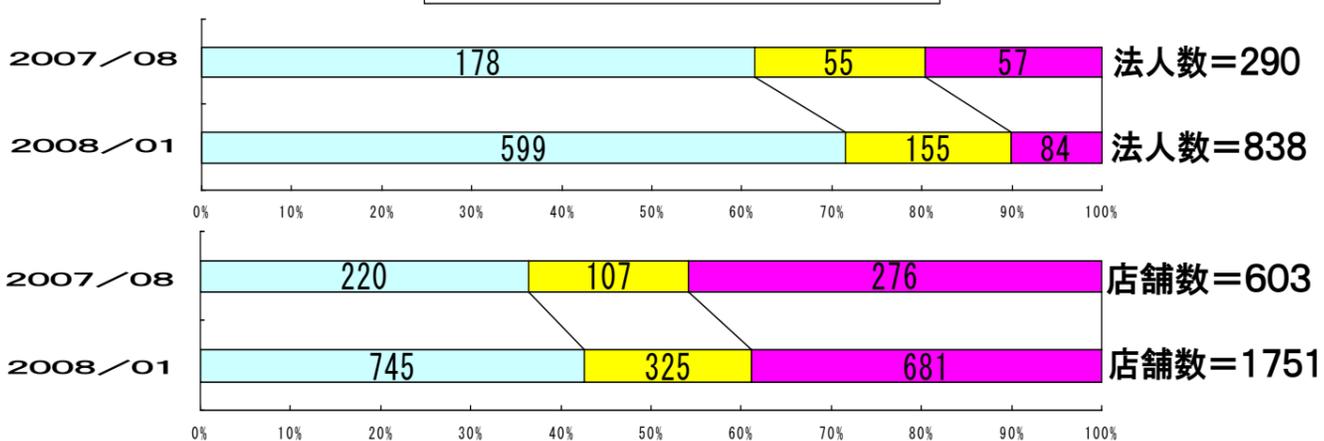
貸玉に地域毎の特色があるかどうかを調べたのが図表4だ。北海道での1円パチンコの普及率は圧巻であり、多くの関係者が視察に訪れるなど、その動向が注目される地域のひとつであるというも頷ける。その他の特徴として東海地区における2円パチンコと10円スロットの件数が高い地域と比べて多くなっている。これは早くからの2円・10円という貸玉の営業形態に起因し、成果を挙げた法人の影響が強いのではないかと考えられる。

また調査をした中で1円パチンコ・2円パチンコ、5円スロット・10円スロット以外の貸玉の存在を確認する事ができた。件数として多かったのが、パチンコでは2.5円貸、スロットでは8円貸というものだ。プリペイド式カードユニットでは玉の貸し出しが遊技機から行われる為、どうして25玉区切りに依存してしまうかが、現金玉貨機やiクリアシステムでは1玉単位で個数を変更することも可能だ。低貸玉市場に後から参入する場合において、「飽和している貸玉を採用せずに未開拓の市場へ挑戦する」といった、他店との差別化を含めた戦略とも考えられるが、既に普及しているこれらの貸玉との違いをどのようにしてファンに明確にアピールできるかがポイントとなるだろう。またこれらの流れはこの低貸玉営業の市場がさらに細分化されてきたこと証明するものといえる。(図表5)

図表5：PSその他貸玉件数

玉数は100円あたり およその貸し出し玉数		
Pその他貸玉	玉数	件数
1. 5円貸	66	1
1. 6円貸	62	2
2. 5円貸	40	16
3円貸	33	2
3. 3円貸	30	1
枚数は1000円あたり およその貸し出し枚数		
Sその他貸玉	枚数	件数
4円貸	250	2
8円貸	125	33
15円貸	66	1

図表6：法人規模別低貸玉営業実施状況



低貸玉営業は、苦肉の策といった表現が用いられ、最後の手段として小規模店舗が行っていたイメージが当初あった。しかし成功店が予想を超えて増えるに連れて、ひとつのビジネスモデルとして確立した感がある。ここでは低貸玉営業を実施している店舗をチェーン店規模別に分類してみた。(図表6) 10店舗以上を持つ大手チェーン店などの積極的な参入が目立つ結果となった。2007年8月時点では57法人で276店舗、2008年1月時点では84法人で681店舗となっている。特に全台1円パチンコ・5円スロットといった低貸玉営業専門店を積極的に展開している法人の影響が強いと思われる。またチェーン店内で実験的に1、2店舗営業したのちに、店舗数を拡大していく法人も多く、この84法人のなかで、43法人は店舗数の25%以上で低貸玉営業をおこなっているという結果もでている。チェーン店においてはスケールメリットを活かし機械台サイクルなどをうまく循環させていくことができるとも言えよう。

低貸玉営業はひとつのジャンルを築き上げた。これだけの店舗数が増えるという過激であるとはいえない。しかし、思うように稼働が上がらず、苦戦を強いる店舗も少なくはなく、いづれにせよ競争は激化していくことが予想される。